

第23回デメンシアカンファレンスを開催

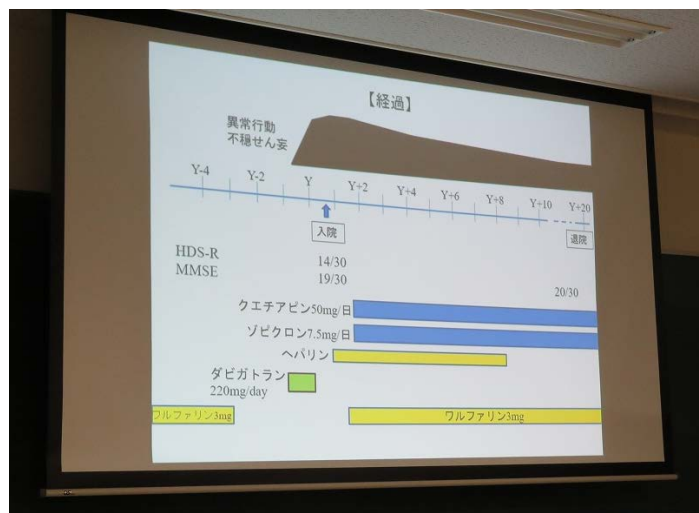
2017年2月14日

2月14日（火）に富山大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第23回デメンシアカンファレンス」を開催しました。

今回のカンファレンスには、金沢大学、富山大学、福井大学、国立病院機構医王病院、国立病院機構北陸病院、医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院、福井県立すこやかシルバー病院の7施設が参加しました。「急に、大声を出したり、徘徊するようになった75歳男性」のタイトルで、富山大学からの症例報告が進められ、各大学、病院間で活発に質疑応答や意見交換が行われました。



症例発表の様子（富山大学会場）



症例報告のスライド



各会場の様子

第 23 回デメンシアカンファレンス 報告要旨

『急に、大声を出したり、徘徊するようになった 75 歳男性』

発表者：小西宏史（富山大学附属病院 神経内科）

司 会：道具伸浩（富山大学附属病院 神経内科）

【要 旨】

症例は 75 歳男性、ワルファリンを 2 日間休薬し、ダビガトランを内服開始した日に、急激に認知機能障害（HDS-R14/30 MMSE19/30）、異常行動、せん妄を呈した。急激に認知機能障害を生じる疾患の鑑別として、甲状腺機能障害や低血糖、肝機能障害や腎機能障害などの代謝性疾患や、感染性疾患が挙げられたが、それらは否定的であった。頭部 MRI にて新鮮な左内包膝部梗塞を認め、内包膝部梗塞による認知機能障害であると診断した。急性期にヘパリンによる抗凝固療法を行い、その後ワルファリン内服を行ったが、14 日後には MMSE20/30 であった。急性発症の認知機能障害を診療する際は、内包膝部梗塞を考慮する必要がある。

【質問・意見】

質問：もともと前頭葉の萎縮があると考えられるが、その関与はあるのか？

回答：内包膝部は視床核群と前頭葉をつなぐ経路（前視床脚）が通っており、その遮断により前頭葉の機能低下を生じる。前頭葉の機能低下があった可能性は否定できないと思われます。



NINPRO

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)

第23回デメンシアカンファレンス

「急に、大声を出したり、徘徊するようになった75歳男性」

日時：平成29年2月14日(火)18:30~20:00

担当：富山大学 神経内科

対象：参加施設及びその他の医療関係者

(医療系大学の学生を含む)

会場：認プロ参加施設テレビ会議システム設置場所

- ・金沢大学(医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室)
- ・富山大学(附属病院2階カンファレンスルーム2)
- ・福井大学(院生棟4階セミナー室)
- ・金沢医科大学(基礎研究棟3階大学院セミナー室)
- ・国立病院機構医王病院(臨床研究棟会議室)
- ・石川県立高松病院(医局会議室)
- ・国立病院機構北陸病院(特殊診療棟2階小会議室)
- ・谷野呉山病院(共通棟1階ミーティング室)
- ・魚津緑ヶ丘病院(5階会議室)
- ・福井県立すこやかシルバー病院(管理棟2階応接室)

【申し込み不要】

出席される方は受付で出席受付簿に氏名等をご記入ください。

教育コース履修者の方は、本人保管用の受講票を受理の上、検印を受けてください。



お問合せ先：北陸認プロ運営事務局
〒920-8640 金沢市宝町13番1号
TEL：076-265-2149
FAX：076-234-4208
E-mail：ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
URL：http://ninpro.jp